

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年2月3日

事業所名 いずみの園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		・粗大運動を行う部屋は1箇所のため、複数人が登園している時は、時間をずらして使用している。	・面談を指導室の開き状況に合わせて入れている。また、近年面談件数と通所利用児が増加しており指導室が開いている時間帯も少なくなっているため、今後面談室が増設されると良い。
	②	職員の配置数は適切であるか	7			療育を必要とする児の増加や保護者が療育の必要性を感じる意識が高くなってきている実態がある。今後利用者が増してくることを見込み、職員数を増加確保をする必要がある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7		玄関にスロープ設置。雨天時、保護者が子どもを抱き傘をさす為、職員が門開閉の補助を共通行動として行っている。	園駐車場から玄関が離れている。抱っこやおんぶ、バギーを使用が必要なお子さんが、雨天でも濡れずに園内に入れるよう、玄関付近に屋根付きの駐車場があると良い。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7		・利用者が帰る毎に玩具遊具施設の消毒を行っている。加え、一日の終わりに全フロアの清掃を行っている。 ・子ども一人一人の活動に合わせた環境をその子の療育時間前に職員で協力して整えている。 ・一人一人に合わせ、刺激になる物を可能な限り除き、その指導時間に必要な物品のみ設定している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7		職員会、カフェランスに全職員が参加し、意見を出し合い、業務の改善に努めている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		日頃の保護者との会話を大切に、意向や意見を把握するように努めている。その意見を職員で共有し、改善につないでいる。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		7		過去には行っていたが、現在は行っていない。行政と連携して広く意見をもらえる環境を整えられると良い。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		web研修が開催されるようになり過去より更に多く研修を受けられる機会を持っている。オンデマンド研修視聴は全職員が受けられる日で行っている。	

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7		・計画と評価の時期を一覧表にしたことで、アセスメントを計画的に作成することができている。 ・全職員で立案に向け検討をすることで、客観的な視点を踏まえられている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		小集団療育、ペア療育の時には、携わる担当者が前回の状況からの課題を意見交流し立案している。児童発達管理責任者が立案にあたり必要に応じた助言をしている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		指導事後のカンファレンスや記録で、子どもの状況に応じたプログラムに気づけるようにしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	7		個の発達に応じた集団活動の取り入れ方や開始時期を検討している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7		朝の打ち合わせ会で、その日の出勤者全員で確認をしている。遊具の入れ替えをスムーズに行えることにも繋がっている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	7		毎日、カンファレンスで行なっている。早急な対応が必要な時は、療育時間終了後に伝達している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7		記録に加えて、担当者の捉えと課題を記入し、次回の支援の活動内容に反映させている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7			
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7		・保健センターの乳幼児健診に本園職員が行き保護者相談を受けている。 ・行政の子育て担当課に支援に関する相談があった際に本園を紹介する流れができている。 ・町の療育システム推進会議で行政の関係部署と情報交流をしている。	

関係機関や保護者との連携	②③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	—			
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等連絡体制を整えているか	—			
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有を図っているか	7		・支援計画と評価を通じて情報共有を行っている。 ・本園の研究会に認定こども園の職員が子どもの本園での姿を参観している。	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		就学前に保護者と確認した引き継ぎ事項を踏まえて、口頭と書面を通じて学校と引き継ぎをしている。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7		・他の児童発達支援事業所への見学をしたり本園の見学受け入れをしたりし自園の振り返りを行った。 ・発達障害者支援センターの専門員から年3回研修、助言を受けている。	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		7	・通所施設であるため、本園の利用者で、こども園に通園している子は在籍園で交流がある。	
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	7		案内があった時には、積極的に参加している。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		毎時終了時、本時の活動の様子を記入した連絡ノート用い、口頭で子どもの様子や支援の意味を伝え、子どもの課題や成長を共通理解する時間をもっている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	7		子どもの課題とする様子により、遊びに入ってもらったり見守り姿勢を依頼したりし、その時期に大切にされたい子どもへの関わりを感じてもらったり、一緒に考えたりしている。	
	保護者	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		入所手続き、更新手続きの際、施設長が説明をしている。
③⑬		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7		児童発達支援管理責任者が説明を行い同意を得ている。	
③⑭		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7		療育指導後に担当者が保護者と話す中で悩みを話された場合、対応をしている。必要に応じ施設長が傾聴、助言を行っている。	希望者には、療育日ではない日時に懇談の機会を設ける。子どもがその場でない環境で十分に話してもらえる時間の確保をする。
③⑮		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7			周知方法に卒園児(小学1、2年生)の保護者への案内を加え、他学年への声かけも可とする。経験談をより多く聞けるよう支援する。

への説明責任等	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		担当者が把握した相談内容により、施設長、児童発達支援管理責任者が対応をした。更に状況により、外部専門員にも繋ぐ体制を整えている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		毎月発行している園だよりに掲載している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7		・外国籍の利用者に文書を配付する際、漢字にふりがなをふったり、対面で説明をしたりしている。 ・個々の子どもの得意な手立て(視覚から理解しやすい等)を取り入れている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		7		コロナ禍以前は開催していたため、今後、開催可能な方法を再検討する。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7			
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7		年間計画に基づいて、毎月訓練を行っている。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	7		入所手続きの際の面談で把握をしている。入所後、状況が変わった時には申し出てもらっている。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7		生活指導管理表を用い管理している。	
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7		ヒヤリハットを感じた時には記録し、朝の打ち合わせ等、全職員が集まる時に情報共有している。早急に情報共有が必要な時は全職員に伝達して歩いている。	
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		毎月月初めにチェックリストを使用し振り返りと再認識をしている。	
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		7		身体拘束の事例なし。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。